

— 高等学校家庭科教科書の記述と学生の意識 —

○ 岩尾美香 堀 康二* (福岡教育大・院 福岡教育大*)

目的 食物繊維の概念が一般社会に普及し、その効用に関心が寄せられ、学校教育においても食物繊維について学ばれている。家庭科の教科書には、食物繊維に関する記述は、量的にわずかであるが、内容的には詳細で高度である。しかし、生徒は食物繊維に関する内容を理解し、生活に活かすことができているかは疑問である。海藻は食物繊維を含む食品の一つであるが、近年特に若年層で海藻の摂取量は減少傾向にある。その原因は海藻が健康維持に有益であるということを知らないからではないかと思われる。そこで、高校生及び大学生が食物繊維と海藻をどのように捉えているかを解明するために調査を行った。

方法 食物繊維及び食物繊維を多く含む食品の認識度、食物繊維の摂取理由、海藻の嗜好性、摂食頻度、海藻に期待する成分及び生理的効果について質問紙法で調査を行い、カイ2乗検定を行った。

結果 食物繊維という言葉の認識度は高く、多くの者が中学生時に家庭科の授業やテレビ・雑誌を通して知っていた。食物繊維を摂取する理由は、高校生は「特に理由はない」が、大学生は「便秘解消」と答える者が多かった。また、海藻は全体の6割以上の家庭で一週間に1回以上は食べられており、最もよく食べられる海藻はワカメであった。海藻に期待する成分は、食物繊維であった。

大学生に比べ高校生は食に対する考えや行動が消極的であった。今後は、学校現場でも、食を選択する機会を生徒に与える必要が見いだされた。